さかまた

No.90
2017.12

▲ 現在の「ラビー」

シャチ「ラビー」20年の軌跡

シャチの「ラビー」は日本で初めて、飼育下で生まれ育ったシャチで、2018年1月11日に20歳をむかえます。今回は、「ラビー」誕生からの20年間を振り返ります。

「ラビー」誕生

「ラビー」は1998年に、父親「ビンゴ」と母親「ステラ」との間に誕生しました。前年にもう1頭のメスのシャチの流産を経験した直後であったため、「ラビー」の出産には大きな期待とともにたくさんの不安も抱いて臨んでいました。

そんな中、1998年1月11日の午前5時過ぎに「ステラ」の下腹部にある生殖孔から小さな尾ビレが現れ、その後約3時間をかけて無事に子シャチが誕生しました。しかし、生まれたばかりの子シャチは、プール底に沈んでいってしまいました。クジラやイルカの赤ちゃんは、生まれた直後に自分の力で水面まで泳ぎ、初めての呼吸をしなくてはなりません。赤ちゃんが生き残るための最初の関門です。悪い予感が走った次の瞬間、同居していたオスのシャチ「オスカー」が子シャチのそばに近づき、頭の後ろを軽くくわえたのです。

▲「ラビー」誕生

▲ 初めての呼吸

この一瞬の出来事の直後に子シャチは泳ぎ始め、初めての呼吸をすることができました。「オスカー」が子シャチを救おうと考えての行動であったのかは分かりませんが、大きな役目を果たしたことには変わりありません。「オスカー」は、後に「ラビー」の2頭の子の父親となります。

子シャチが呼吸をして一安心もつかの間、子シャチに寄りそって泳ぐはずの「ステラ」がいつまでたっても子シャチの面倒を見ようとしません。「ステラ」の母性を喚起させようと、トレーナーがプールに入り子シャチを捕まえるふりをしたところ、ようやく子シャチと一緒に泳ぎ始めてくれましたが、子シャチが最初のお乳を飲むまでには、出産から丸2日以上を要しました。この一連の経過は、私たちにとってとても長い時間に感じられたことを今でも思い出します。その後「ラビー」という愛称も決まり、母親の愛情を受けてすくすくと成長していきました。

子供時代

生後4カ月目にはエサの魚を食べ始め、トレーニングがスタートしました。覚えたての動作を、トレーニングの時間以外にも自ら繰り返しておこなうほど夢中になっていました。そして1歳半の夏にパフォーマンスデビューを果たします。「ビンゴ」と「ステラ」の演技の合間に得意なランディングでポーズを決めた姿が印象的でした。

元気いっぱいに日々を過ごしていた「ラビー」でしたが、2歳の時にたいへんなハプニングが発生します。サブプールで元気に泳いでいた時、波に乗ったまま勢い余ってプールサイドにすべり出て、せまい通路にスッポリはまってしまったのです。すぐさま緊急の救出作戦が始まりました。

2歳といっても体重は740kg、通路のすぐ横にはフェンスもあり、人手をかけてプールにもどせる状況ではありません。フェンスの支柱を切断して「ラビー」の体の下になんとか担架をすべり込ませ、手配したユニック車で慎重につり上げ、やっとのことでプールにもどすことができました。開園中であったため、お客様の見守る中での救出となりましたが、幸いにケガはなく、プールにもどった後は何事もなかったかのように「ステラ」と泳ぎ始めました。

▲ 父親「ビンゴ」(奥)と「ラビー」(手前)

▲ 飛び出してしまった「ラビー」

妹たちの誕生

「ビンゴ」と「ステラ」の間には、2001年に「ララ」、2003年に「サラ」、2006年には「ラン」と、相次いで妹たちが誕生しました。シャチパフォーマンスの主役も「ビンゴ」「ステラ」から「オスカー」「ラビー」にかわり、「ラビー」は活躍をつづけました。「ラビー」が子どもを産める年齢になれば、当時、すでに大人の年齢に達していた「オスカー」がその相手になることは想像できましたが、その時期まではだれも予想していませんでした。

▲「ラビー」4歳

▲「ラビー」(上)、「ララ」(中)、ステラ(下)

「ラビー」母になる

メスのシャチは7～8歳で大人に成長するといわれています。「ラビー」も9歳になった2007年4月に、「オスカー」との間に交尾行動が観察され、血液検査で妊娠が判明しました。さらに2カ月後には、超音波検査で胎児を確認することができました。「ラビー」の妊娠は、誕生以来成長を見守ってきた私たちにとって大変感慨深いものがありました。

妊娠判明から1年半近くの間、普段以上に「ラビー」の健康状態に気をもみながらむかえた2008年の10月、ついに出産の兆候である体温の低下が始まりました。そして10月13日の朝には破水があり、出産が始まりました。分娩のさなかに開園時間をむかえたため、たくさんのお客様が見守るなかで「ラビー」は初めての出産に挑みました。そして、破水から3時間後の11時44分、お客様から大きな歓声がわきあがり、その視線の先に水面で呼吸する小さなシャチの姿が確認できました。「ラビー」はすぐに子シャチに寄り添い、その25時間後には、じょうずに授乳もおこないました。それまで妹たちの誕生と「ステラ」の育児を見てきた「ラビー」は、私たちの心配をよそに母親としての大役を立派に成し遂げてくれました。

▲「アース」出産

▲ 左から「ラビー」、「ララ」、「ラン」、「ルーナ」

「アース」と命名されたこのオスの子シャチが2歳半をむかえた時、「ラビー」と母親「ステラ」2頭の妊娠が判明しました。両方の出産・育児を成功させるために、私たちは、それまで飼育を続けてきたシャチの群れをふたつに分けるという大きな決断をしました。オーシャンスタジアムには「ラビー」を中心とした水族館生まれのシャチたちが残り、「ステラ」は「ビンゴ」、「ラン」とともに名古屋港水族館で新生活を始めました。2頭の母親はそれぞれ無事に出産し、子シャチたちも順調に成育しています。これを機に鴨川シーワールドのシャチの飼育は新しい時代に入りました。

現在「ラビー」は妹の「ララ」と「ラン」、娘の「ルーナ」と一緒に生活しています。群れのリーダーであり、たくましい母親となった「ラビー」はトレーナーたちにとっても頼れる存在です。誕生から20年をむかえ、今後も「ラビー」とともにシャチの素晴らしさを皆さまに伝えてゆく気持ちを新たにしています。

小松 加苗
Kanae Komatsu

▲ 岸壁に引き上げられたメガマウスザメ

▲ 迷入した定置網の位置

▲ イケス網

▲ 海底に横たわるメガマウスザメ

▲ 体勢を整え担架へ

▲ 担架に収容

メガマウスザメの捕獲

5月22日に房総半島の南に位置する館山市洲崎（すのさき）沖の定置網に、世界的に大変めずらしい大型のサメ、メガマウスザメが迷入しました。今回の個体は、世界では108例、日本では20例目の記録です。

生きている姿はめったに見ることができないことから、近くの波左間海中公園まで定置網ごと移動し、大型の網イケスに収容されました。私たちも生きて泳ぐ姿をぜひ見たいと連絡をとりましたが、すでに夜となり潜水調査には危険がともなうため、翌朝に調査をおこなうことになりました。

翌朝9時、現地に到着した時にはすでに多くの報道陣が集合しており、めずらしいサメの生きて泳ぐ姿を撮影しようと、騒々しい雰囲気に包まれていました。イケスの大きさは、直径50m、水深は約6～7mあります。当日の海中での視界は悪く、潜水してイケス内を探していると、海底に体長5mを超えるメガマウスザメが見えてきました。潜水する前にはまだ生きていると聞いていましたが、確認できた時にはすでに動きはなく、巨体が海底に横たわっていました。残念ながら、生きて泳いでいる姿を見ることはできませんでしたが、少しでも多くの記録を残すために研究者たちによって体の計測や観察がおこなわれました。

大変貴重なサメであることから何とか調査研究に役立てたいと考え、この個体を鴨川シーワールドで引き取ることにしました。イケス網からすぐに運び出すことができないため、まず機材と人員の手配をすることとして、海中からの移動と鴨川までの輸送は翌日におこなうことにしました。

巨体をつり上げるための大型担架や体重を計測するつりばかりなどを準備し、翌朝9時からはじまった作業には、海中公園専属のダイバーに協力していただきました。

港の岸壁で担架に乗せ換え、大型クレーンで担架ごとつり上げ陸上に移そうとしましたが、巨体のバランスをとるのがむずかしく、何度も担架への収容をやり直しました。ようやく陸上に移して体の計測をおこなったところ、全長5.4m、体重1.2tのメスでした。

その後、体表が乾燥しないようにシートで体を包んでからトラックに載せて輸送し、鴨川にある大型冷蔵庫に収容しました。

現在も冷凍保存中ですが、大型のメス個体の記録は非常に少なく、今後予定されている解剖調査によってメガマウスザメの生態が少しでも多く解明されることに大きな期待をよせています。

大澤 彰久
Akihisa Osawa

▲ 母親「オリノ」と子イルカ

▲ 超音波画像診断

▲ 尾ビレが出現

▲ 誕生の瞬間

▲ 授乳

バンドウイルカの誕生

9月21日にロッキーワールドの「イルカの海」で、バンドウイルカのオスの赤ちゃんが誕生しました。当館では30例目の出産です。母親「オリノ」（24歳）は1993年10月28日生まれ、父親「リキ」（14歳）は2002年1月18日生まれで、当館では初めてとなる飼育下2世の両親から誕生した3世の子どもです。

サーフスタジアムで仲間のイルカたちと生活していた両親は、2016年9月10日ごろより、並んで泳ぐ姿やおたがいのお腹をつけあう発情行動がみられるようになり、9月13日に交尾を確認しました。しばらくして妊娠を示すホルモン値の上昇や、超音波画像診断により胎児を確認したことから妊娠と判断されました。

出産に備え分娩から育児を通じて水中の親子の様子を詳細に観察することができる「イルカの海」に「オリノ」を移動しました。「オリノ」は1999年から2016年までの17年間にわたりパフォーマンスで活躍していたこともあり、ほかの母親が子育てをする様子をほとんど目にしていません。初めての出産と育児が順調に進むかとても心配されました。出産2日前の9月19日より、出産が間近に迫ったことを示す体温の低下が認められ、24時間体制での観察を始めました。9月21日になると、体を反らせたり内側にまるめるなどの陣痛行動が次第に多くなり、13時22分に破水を確認しました。開館中の出産となったため、プールサイドと水中観覧窓周辺を規制して見守っていると、破水から57分後に子イルカの尾ビレの先端が出現しました。その後もプール内を落ち着きなく泳ぎ、時には逆立ちをくり返したり、下腹部をプール底にこすりつけたりしている間に少しずつ出ている部分が多くなり、破水から2時間以上が経過した15時42分に赤ちゃんが誕生しました。

「オリノ」は少しの間、赤ちゃんと距離を置いていましたが、次第に寄りそって一緒に泳ぎ始めるようになりました。誕生から約3時間後の18時39分には初めての授乳が確認され、親子関係もしっかり成立したように見えましたが、まだ泳ぎのおぼつかない赤ちゃんイルカを放ったままトレーナーやお客様の近くに行ってしまうなど、これまでにない育児の様子に、しばらくの間は心配がつきませんでした。最近は赤ちゃん太りが認められ、ほかのイルカたちも保母役として赤ちゃんと一緒に泳ぐなど、子育て群として安定してきたように感じられます。

「イルカの海」で、「オリノ」の母親を中心とした群に次々とイルカの赤ちゃんが誕生したように、「オリノ」もまた、これからの鴨川シーワールドにおけるイルカの繁殖を担ってくれることを願っています。

細野 透
Toru Hosono

MOLA MOLA
モラモラ

シャチの「サマースプラッシュ」

今年もオーシャンスタジアムでは、恒例となった「サマースプラッシュ」を実施しました。この夏は尾ビレを使って繰り返し水を飛ばすテールバーストを、4頭のシャチが時には同時にある時は入れ替わりながらおこない、スタンド全体をびしょ濡れにしました。迫力満点のテールバーストが始まると観覧席の前列はもちろん、時にはスタンド上段を越えて通路にまで水しぶきがとどくこともあり、お客様からは歓声だけでなくどよめきもあがっていました。水しぶきを見てあわててポンチョを購入するお客様がいる一方で、何度もすすんで水を浴びる方の中にはゴーグルに水着のお子様の姿もあり、いろいろなかたちで「サマースプラッシュ」を楽しんでいただいていました。

布留川 夕香里
Yukari Furukawa

ウミガメの保護活動2017

鴨川市の海岸では、毎年6月から8月にかけてアカウミガメの産卵が見られます。当館では、産卵場所が波打ち際に近く、満潮時に波をかぶったり流されてしまうなど、ふ化に適さない場所の卵の保護活動をおこなっています。当館前の東条海岸では今年6月6日から4回の産卵が確認されたほか、市内の海岸でも2回の産卵を確認しました。そのうち、4カ所の産卵場所はふ化に適さない場所と判断されたため、卵を「ウミガメの浜」に保護し、ふ化するまで見守っていたところ、8月8日から10月2日までに合計228個体の子ガメがふ化し、海へと旅立ちました。例年に比べ東条海岸での産卵回数が少ないようでしたが、来年はより多くの母ガメが産卵に来てくれることを期待しています。

藤原 未由葵
Miyuki Fujiwara

「生物多様性コーナー」の引っ越し

現在、エコアクアロームは耐震補強工事のために閉館していますが、「生物多様性コーナー」は、ロッキーワールドの地階に移動して展示を継続しています。千葉県に生息する希少生物を展示し、その生き物がおかれている状況を知っていただくとともに、地域の生物多様性の重要性を伝えています。このうち、ニホンイシガメの展示水そうには、8月9日に予備の飼育水そう内で発見された卵からふ化した体長4㎝ほどの子ガメが仲間入りしました。引っ越しした「生物多様性コーナー」で、かわいい子ガメの姿を見ることができます。

森 一行
Kazuyuki Mori

開業記念日感謝DAY

鴨川シーワールドは1970年10月1日に開業し、今年で47年目をむかえました。開業記念日にちなみ、9月30日、10月1日の2日間は、勝俣館長による特別レクチャー「シャチものしり講座inオーシャンスタジアム」を開催しました。年表を使って、これまでの鴨川シーワールドのあゆみとシャチ飼育の歴史について紹介するとともに、お客様の目の前にシャチを呼び、体の特ちょうや生態をくわしく解説しました。また、鴨川シーワールドで飼育している4頭のシャチの紹介もかね、1頭ずつ華麗なジャンプを披露したところ、お客様から大きな歓声をいただきました。

金井 あずさ
Azusa Kanai

鴨川シーワールドアルバム

「ステラ」からのメッセージ

▲最初の赤ちゃん「ラビー」と

「ステラ」は1988年にアイスランドからやってきたメスのシャチで、私たちに色々なことを教えてくれています。

鴨川シーワールドへやってきて間もない頃、「ステラ」を1頭きりでプールに収容したことがありました。「ステラ」はプールを隔てるゲートの柵越しに仲間のいるプールをのぞき、さみしそうに浮いています。日に日に元気がなくなっていったので、6日目にはゲートを開放して仲間と一緒にするとみるみる元気を取りもどし、楽しそうに遊ぶ姿も見られるようになりました。こころの世話が重要なことを痛感させられました。

「ステラ」は5頭の子どもを産み育てていますが、1998年の最初の赤ちゃんは全く面倒を見ようとしませんでした。最終的にはトレーナーが赤ちゃんを捕まえようとすると関心を示し、面倒を見るようになりました。この時の子、長女の「ラビー」は自分の子どもが生まれるとすぐに面倒を見ています。これは、初めて母親になる動物にとって、仲間の育児を見たり、時には参加するという経験の大切さを示す例ですが、そのような機会がなかった「ステラ」が、この時の自らの経験をもとに、その後4度の出産・育児を成し遂げたことには敬意を感じます。

子どもを持った「ステラ」は、この頃より群れの中で一番の影響力をもつようになりました。自然界のシャチはポッドと呼ばれる母親を中心とした母系集団で構成されます。飼育下でも母親となった「ステラ」を中心とした動物同士の関係が形作られたのです。そのパワーは絶大で、「ステラ」の気分次第で他のシャチはエサも食べられなくなるほどです。私たちに分からないシャチの世界を感じさせてくれたのも「ステラ」でした。

「ステラ」は現在、名古屋港水族館で生活していますが、今でも、私たちは「ステラ」の飼育から学んだことを多くの場面で参考にしています。

前田 義秋
Yoshiaki Maeda

▲搬入当初、ランディング遊び

▲「ステラ」(左上)を中心とした群れ(ポッド)

Kamogawa Sea World NEWS

鴨川シーワールドニュース
2017/6/1▶2017/10/31

動物友の会月例会

テーマ：鴨川シーワールドの仲間たち

実施日		タイトル	出席者数
2017年度	6/17、24	棘皮動物（ウニ・ヒトデ）	66名
	7/15、22	節足動物（エビ・カニ・ヤドカリ）	44名
	8/19、26	磯生物観察	75名
	9/16、23	は虫類（カメ）	67名
	10/21、28	刺胞動物（クラゲ・サンゴ）	48名

イベント

園内催事	
6/15	千葉県民の日
	・千葉県内中学生以下入園料金無料
	・千葉県の魚 マダイの放流

千葉県の魚
マダイの放流

7/15 ～ 8/31	鴨川シーワールド2017サマーイベント
	・シャチの「サマースプラッシュ」
	・イルカの「ローマンライド」
	・サメとエイのタッチングプール

サメとエイの
タッチングプール

園内催事	
	・ナイトアドベンチャー（夜の水族館探検） 14回実施（1,276名）
	・トロピカルアイランドナイトステイ 17回実施（493名）
	・ロッキーワールドナイトステイ 9回実施（141名）
9/16、18	敬老の日
	・千葉県内の65歳以上の方入園料金無料
9/30、10/1	開業記念日感謝DAY
	・入園料金半額優待
	・勝俣館長による「シャチものしり講座inオーシャンスタジアム」

講演	
9/21 ～ 10/25	千葉県内学校対象「ウミガメ移動教室」（2校132名）
7/22	「海獣類の子育てのふしぎ」
	主催：千葉市母と女性教職員の会　開催：千葉市民会館　講師：勝俣獣医（1,000名）
7/26	「海獣類の子育ての不思議～イルカのママもセイウチのママも私たちと同じママ～」
	主催：香取母と女性教職員の会　開催：香取市佐原文化館　講師：勝俣獣医（50名）
7/28	「ウミガメ移動教室」
	主催：JTB首都圏　開催：イオンモール八千代緑が丘　講師：桐原社員、武井社員（100名）

ウミガメ移動教室
イオンモール
八千代緑が丘

8/1	エコキッズ探検隊2017「ウミガメ移動教室」
	主催：エコキッズ探検隊運営事務局　開催：東京サンケイビル　講師：大澤課長、渡邊社員（25名）
9/23	第92回麻布獣医学会市民公開講座「海獣と共に暮らす-獣医さんの裏話-」
	主催：麻布大学　開催：ホテルプラザ菜の花　講師：勝俣獣医（50名）
9/29	「命と向き合う～獣医の仕事から見る子育て・子離れ～」
	主催・開催：君津市生涯学習交流センター　講師：勝俣獣医（50名）

レクチャー	
6/9 ～ 10/25	動物レクチャー
	「シャチとの歩み」「ウミガメが生まれた！」他 12回実施（867名）

その他	
6/1	千葉県環境功労者知事感謝状表彰（絶滅危惧種で国内希少野生動植物のシャープゲンゴロウモドキ及び
	ミヤコタナゴの千葉県固有系統の保存に貢献）
6/3	第15回 勝浦港カツオまつり　海の生き物タッチングプール
	主催：勝浦市
6/3、4	鴨川シーワールド満喫体験・鴨川シーワールド満喫宿泊体験 2回実施（20名）
6/10 ～ 10/29	ジュニアトレーナー 19回実施（108名）
6/10 ～ 7/8	大人のナイトステイ 4回実施（114名）
7/18 ～ 9/30	ワンダフルドルフィン 25回実施（194名）
7/24 ～ 8/4	サマースクール 9回実施（332名）
9/26	東条小学校職場体験 4名
9/23 ～ 10/14	レディースナイトステイ 5回実施（141名）

表紙写真：シャチの「ラビー」（左）、「ルーナ」（右）

鴨川シーワールド
〒296-0041 千葉県鴨川市東町1464-18
TEL：04-7093-4803　FAX：04-7093-4829
http://www.kamogawa-seaworld.jp/
鴨川シーワールドは、グランビスタ ホテル＆リゾートが運営する施設です。